



「島根の怪童」
富山大志選手
(平成28年入部)

富山は、原井の先輩でもある九州共立大学の監督から連絡を頂き「長打の打てる外野手で鍛え方によっては、面白い存在なので一度見てほしい」とのことで、原井自身も高校時代を覚えており「啓太郎の先輩で、当時は島根の怪童と呼ばれてました」と聞いていたので「巨漢で厳つい」と勝手にイメージを抱いていたので、セレクションで対面するとギャップの差に少し戸惑いましたが、打撃練習では、外角は右中間へ、真中、内角は左中間へとしっかりと打ち返すなど『島根の怪童』ぶりを遺憾なく発揮してくれて、原井からは「中国地方では知らない者がいないほど有名」と聞きました。また啓太郎からも、富山さんは雲の上の存在で「面と向かって話は出来ません」と言っていたのを覚えています。

入部後は、守備で肘を痛めたりと故障に泣いていましたが、DHで出場もセレクションで見せた思い切りの良い打棒は陰を潜め、結果を出せずにはいませんでしたね。

また、新人時代に寮の移動に際し注意されたり、2年目の日本選手権大会では、タバコで上田事務局長から説教を受けるなど「史上最低の年代」だと噂されていましたが、3年目の今年は、一念発起して打撃フォームを改造し、スタンスを大きくとりながらスイングするスタイルに変え、また今年に懸ける思いを前面に出して、OP戦の甲賀戦では「3安打以上打ちますので見ていて下さい」と公言し、見事6打数6安打6打点と今までの「不振と不安」が嘘のように、「自信に満ち溢れた」打席に変わりましたね。

クラブ全国の1回戦の弘前アレッズ戦では右中間フェンス直撃の2塁打を放ち、2回戦のビック開発戦でも2安打を放つなど、全4試合をDHでの先発出場をし『島根の怪童』復活を思わせるような活躍でした。これから、地元に戻り家業を継いでいきますが、新人からの始まりなので「謙虚な気持ちと、自信を持って」頑張ってください。3年間本当にご苦労様でした。